

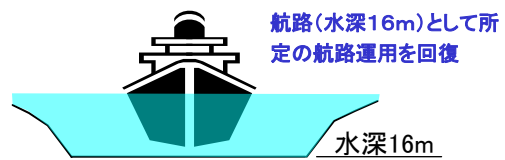
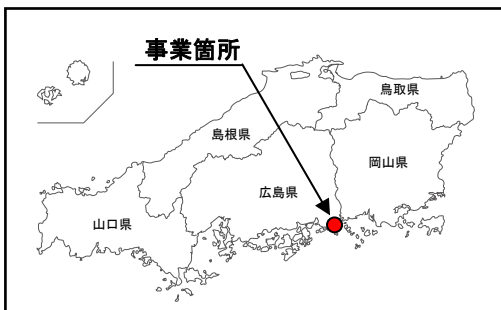
事業推進

福山港では、昭和38～45年度にかけて航路の浚渫が行われ、水深16m、幅350mの航路が完成しました。しかしながら航路の一部に埋没がみられ、現在は航路に進入する船舶は積載貨物量を減じる喫水調整を余儀なくされており、立地企業の国際競争力確保のボトルネックとなっています。

こうした中、立地企業における生産拠点の再編・集約の進展や旺盛な中国需要を背景とした貿易量の拡大により、本航路の重要性は増し、航路埋没の影響は拡大傾向にあります。

早期に航路埋没を解消し、所定の航路機能を回復することにより、輸送コストが削減でき、背後立地企業の国際競争力が確保され、地域経済の再生が期待されるため、平成21年の完成を目指し、事業を推進します。

【企業が事業費の1/2を負担する特定港湾施設工事で実施】



期待される整備効果

所定の航路機能を回復することにより、貨物の積載効率が向上し、物流コストが削減されます。

これにより、港湾背後に立地する主要企業の国際競争力が確保され、我が国の産業及び経済の振興が期待されます。